

第 9 回

熊本県議会

高速交通及び新幹線活用対策特別委員会会議記録

平成24年12月14日

開 会 中

場所 第 3 委 員 会 室

第9回 熊本県議会高速交通及び新幹線活用対策特別委員会会議記録

平成24年12月14日（金曜日）

午前10時00分開議

午前11時09分閉会

本日の会議に付した事件

- 1 高速交通体系に関する件
- 2 熊本都市圏交通に関する件
- 3 九州新幹線鹿児島ルートを活用した地域振興に関する件
- 4 付託調査事件の閉会中の継続審査について
- 5 その他

出席委員(16人)

委員長 井 手 順 雄
副委員長 池 田 和 貴
委 員 山 本 秀 久
委 員 村 上 寅 美
委 員 小 杉 直
委 員 岩 下 栄 一
委 員 氷 室 雄一郎
委 員 鎌 田 聰
委 員 佐 藤 雅 司
委 員 西 聖 一
委 員 浦 田 祐三子
委 員 内 野 幸 喜
委 員 増 永 慎一郎
委 員 泉 広 幸
委 員 杉 浦 康 治
委 員 緒 方 勇 二

欠席議員（なし）

委員外議員（なし）

説明のため出席した者

企画振興部

部 長 錦 織 功 政

熊本県理事

兼交通政策・情報局長 小 林 豊

首席審議員

兼地域振興課長 津 森 洋 介

交通政策課長 中 川 誠

商工観光労働部

観光課長 小 原 雅 晶

くまもとブランド

推進課長 坂 本 孝 広

土木部

部 長 船 原 幸 信

道路整備課長 手 島 健 司

道路保全課長 亀 田 俊 二

都市計画課長 内 田 一 成

審議員兼

鉄道高架推進室長 上 野 晋 也

警察本部

交通部長 浦 田 潔

交通規制課長 奥 田 隆 久

事務局職員出席者

政務調査課課長補佐 森 田 学

政務調査課主幹 松 野 勇

午前10時00分開会

○井手順雄委員長 それでは、ただいまから第9回高速交通及び新幹線活用対策特別委員会を開催いたします。

なお、本委員会に1名の傍聴の申し込みがあっておりますので、これを認めることいたします。

それでは、まず、執行部を代表して、錦織企画振興部長に挨拶及び概要説明をお願い申し上げます。

○錦織企画振興部長 本委員会開会に当たり

まして、執行部を代表してまず御挨拶を申し上げ、続きまして、本委員会の付託案件の概要について御説明申し上げます。

井手委員長、池田副委員長を初め委員の皆様方におかれましては、さきの本委員会管外視察につきまして大変お世話になりました。現地で得られました情報につきましては、今後の事業推進に役立ててまいりたいと考えております。

それでは、付託案件の概要について御説明申し上げます。

第1に、高速交通体系に関する件でございます。

まず、高規格幹線道路等の道路ネットワークの整備につきましては、厳しい道路予算の状況ではございますが、早期完成が図られるよう要望活動などに積極的に取り組んでおるところでございます。

次に、航空路線の利用促進につきましては、国内線全体の本年11月までの利用実績は、昨年度を上回る水準となっております。

国際線につきましては、台湾向けチャータ一便の造成や新たなインバウンド対策を初めとする路線振興に取り組むなど、引き続き阿蘇くまもと空港の活性化及び拠点性向上に努めてまいります。

第2に、熊本都市圏交通に関する件でございます。

阿蘇くまもと空港へのアクセス改善や公共交通機関の利用促進などを進めながら、引き続き交通ネットワークの強化に取り組んでまいります。

第3に、九州新幹線鹿児島ルートを活用した地域振興に関する件でございます。

まず、九州新幹線の運行状況でございますが、8月までは前年度と同程度の利用者数でございましたが、9月以降、昨年度よりやや減少している状況にございます。

次に、九州新幹線を活用した熊本づくり及び観光振興等についてでございますが、ま

ず、くまもとプロモーションにつきましては、大手飲料メーカーによる熊本県のデコポンを使用した商品のCMが全国で放映されるなど、引き続き認知度の高い「くまモン」を活用して、多彩な熊本の魅力をアピールし、熊本の認知度向上に努めてまいります。

次に、観光キャンペーンにつきましては、九州新幹線全線開業効果の継続・拡大と、7月に発生いたしました熊本広域大水害による観光客の落ち込みを回復させるため、「期待を超えるぞ！くまもっと県。」キャンペーンを開催しておるところでございます。全国に向け熊本の魅力を引き続き発信してまいります。

以上、各案件につきまして概要を御説明いたしましたが、詳しくは各担当課長から御説明申し上げますので、御審議のほど何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

○井手順雄委員長 それでは、議題(1)執行部から事業概要の説明を受け、その後質疑を受けたいと思います。

説明につきましては簡潔にお願い申し上げます。そして、着座のままで説明をお願いいたします。

○手島道路整備課長 道路整備課でございます。

お手元の資料に基づきまして、今回は、前回からの変更点、アンダーラインの箇所を中心に説明させていただきます。

担当しておりますI高速交通体系に関する件について御説明申し上げます。

1ページをお願いいたします。

今回、最下段の平成24年11月20日現在の供用延長について、日付と供用延長の修正を行っております。前回から24キロメートル伸びております。

8ページをお願いいたします。

中九州横断道路の今後の取り組みのところ

でございますが、7月12日に被災しました国道57号滝室坂について、中九州横断道路にも活用可能な形で早期に整備することを、国に求めてまいります。

11ページをお願いいたします。

平成24年度の要望活動等のところを時点修正しております。九州中央自動車道建設促進協議会において、10月22日に国に提言活動を行っております。

12ページをお願いいたします。

南九州西回り自動車道建設促進協議会において、11月16日に国に提言活動を行っております。その他、国等への要望等といたしまして、中九州横断道路につきまして、11月9日に、熊本と大分の両県知事、両県県議会議長合同により、国に対し滝室坂及び全線の早期整備を求める提言活動を行っております。

以上で説明を終わります。

○中川交通政策課長 交通政策課でございます。

14ページをお願いいたします。

航空路線の利用促進でございます。

まず、国内線の状況でございます。

12月1日現在、国内線6路線38便が就航しております。11月までの旅客実績は、平成23年に比べ4.4%の増となっております。

東京線につきましては堅調に推移しております、11月までの実績は、前年度に比べ9.3%の増となっております。

大阪線につきましては、神戸線スカイマークの運休もあり、11月までの実績は、前年度に比べ14.1%の減となっております。

1ページをおめくりください。16ページをお願いいたします。

国内線の路線別の旅客数内訳、11月までの数字でございます。一番左の太線で囲んでいるところが今年度の状況でございます。上から東京線、利用率66.6%、それから頑張っているところは中ほどの小牧線67.8%、伊丹線

70.6%、トータルで65.3%となっております。

今後の取り組みでございます。

東京線につきましては、羽田の再拡張に伴う発着枠の拡大に伴う枠配分が、航空会社に対してなされております。熊本-東京線の増便活動の要望を行ってまいります。本日、委員会開会直前に、SNAソラシドエアの社長と知事との対談もあっており、県のほうから要望の申し入れをしております。また、週明け17日には、県議会議長、知事、経済界の代表とともに、JAL、ANAの本社訪問を予定しております。

17ページをお願いいたします。

国際線の状況でございます。

中段、ソウル線でございます。ソウル線につきましては、外国人利用の減に加え、福岡に就航しているLCCの影響等、また両国間の状況等もあり、日本人の利用も若干伸び悩んでおります。利用率は50%台を推移しております。先日、延べ30万人突破の記念イベントを行ったところでございます。

最下段、台湾線でございます。9月以降11月にかけまして、中華航空、復興航空、エバー航空等の本社、日本支社等を断続的に訪問し、要望活動を実施しております。当委員会でも10月末に、航空会社や高雄市等の訪問をしていただいたところでございます。大変お世話になりました。

1ページおめくりください。19ページでございます。

ソウル線の状況、11月までの状況でございます。一番上の段の左端が今年の状況でございます。利用者数1万6,991人、前年に比べて600人ほど劣っております。外国人、日本人の割合がほぼ半々になっております。利用率は55.7%でございます。

真ん中の欄が月別の利用者数の推移でございます。9月、10月、11月、利用者数54%、52.9%、54.1%とやや足踏み状態が続いてお

ります。

最下段、チャーター便の状況でございます。こちらは前年に比べかなり数字がよくなっています。11月現在で、昨年度の25便に比べまして既に39便飛んでおります。特に、台湾便の伸びが顕著でございます。

1ページをおめくりください。

今後の取り組みでございます。台湾線につきましては、来年1月下旬に県、民間団体等によるチャーター便を造成し、知事によるトップセールスを取り組む予定でございます。

1ページをおめくりください。22ページでございます。

航空物流でございます。9月、10月、11月と、前年94.3%、89%、83.8%とやや足踏み状態でございます。一番右端が11月までの累計でございます。対前年94.4%となっております。現在、航空物流の需要調査を行っているところでございます。

交通政策課は以上でございます。

○内田都市計画課長 都市計画課でございます。

資料の32ページをお願いいたします。
熊本都市圏交通施策の主な取り組みでございます。本年10月から11月にかけまして、熊本都市圏の約12万世帯の方々に、人の動きを把握するためのパーソントリップ調査を実施をいたしました。12月1日現在の回収率は38.5%となっており、他の都市圏の事例と比べまして高い状況となっております。

調査に御協力をいただいた皆様方に、この場をかりましてお礼を申し上げたいと思います。

説明は以上でございます。

○中川交通政策課長 交通政策課でございます。

34ページをお願いいたします。

豊肥本線を活用した空港ライナーの運行状

況でございます。11月末現在で、延べ利用者数が5万4,297人となっております。

月別1日当たりの利用者が、9月で143人、10月145人、11月152人と少しづつではございますが伸びております。今後も安定的な運行につながるよう、さらに利用者増に取り組んでまいります。

35ページをお願いいたします。

熊本市電の電停改良の状況でございます。市電の電停のバリアフリー化は熊本市が取り組んでおりますが、今年度市立体育館前を整備済みでございまして、現在35電停のうち7電停のバリアフリー化工事が実施済みでございます。

次ページをお願いいたします。37ページでございます。

公共交通機関の利用促進策でございます。下段をお願いいたします。

自家用車から公共交通機関を利用した通勤への転換を図るエコ通勤の実証実験を、JR光の森駅ーセミコンテクノパーク間において、年明け2月ごろに実施する予定でございます。また、12月1日から、JR九州のICカード乗車券「SUGOCA」の利用エリアが、県内の32駅に拡大されております。

交通政策課は以上でございます。

○内田都市計画課長 都市計画課でございます。

38ページをお願いいたします。

パークアンドライドについて御説明をいたします。

現在、熊本都市圏におきまして、10カ所におきましてパークアンドライドを実施しております。11月末時点での状況は、表の最下段の合計欄のとおり、駐車可能台数546台に対しまして契約台数は334台、稼動率は61%となっております。

パークアンドライドの利用促進に向けた取り組みでございます。9月のバス・電車フェ

スタに加え、10月に熊本電鉄北熊本駅において開催された「電車ふれあいまつり」や藤崎宮前駅におきまして広報活動を行ったところでございます。

資料の39ページをお願いいたします。

10月には、県政広報ラジオ番組で広報を実施しております。11月から12月にかけてまして、従業員500人以上の13の事業所へ、利用促進の働きかけ、従業員に対するアンケートの実施、またパークアンドライド駐車場運用中の駐車場事業者への改善の働きかけを行ったところでございます。

普及促進に向けた取り組みでございますが、JR宇土駅駐車場では整備が完了し、10月から30台で運用が開始されております。

今後の取り組みでございます。40ページをお願いいたします。

上段のところでございますけども、11月から12月にかけて実施をいたしましたアンケート結果をもとに、稼動率が低迷している箇所の問題点等への整備を行ってまいります。

説明は以上でございます。

○上野鉄道高架推進室長 鉄道高架推進室でございます。

資料41ページのJR鹿児島本線等連続立体交差事業をお願いいたします。

9月の当委員会におきまして、事業の完了は平成28年度から2年延びて平成30年度の見込みとなったことを御説明いたしましたが、(1)事業概要②の全体事業費につきましては、現在JR九州と精査中でございます。精査が終わり次第御説明いたします。

資料の42ページをお願いいたします。

恐れ入りますが、あわせて別添資料の図面を、こちらの図面でございますが、(資料を示す)参考としてご覧いただきたいと思います。

まず、(1)～②の一般部、図面では水色の約4キロにつきましては、平成26年度末の上

り線と下り線の高架化への切りかえを目指して、6つの工区に分けて高架橋の基礎や本体を施工しています。

下の米印の11月12日に、北岡工区で発生したクレーン転倒事故につきましては、県はJR九州に対し原因究明と再発防止対策を求め、またJR九州からは県に対し、事故が発生したことへの謝罪と事故原因、再発防止対策の説明が行われました。

次の米印の12月12日、おとといでございますが、春日工区で発生いたしました工事資材運搬用のトレーラーと普通列車の衝突事故につきましては、現在JR九州が原因調査中でございます。

次に、②の熊本駅部、図面では桃色の約2キロにつきましては、上り線の平成26年度末の高架への切りかえを目指して、5つの工区に分けて高架橋の基礎や本体を施工いたしております。

最後に、(2)の予算要望活動につきまして、事業を工程計画どおり進めていくには、平成25年度、平成26年度ともに約85億円の予算が必要でございますので、7月と11月に国へ強く要望を行っております。

以上で説明を終わります。

○中川交通政策課長 交通政策課でございます。

資料の47ページをお願いいたします。

九州新幹線鹿児島ルートを活用した地域振興に関する件でございます。

九州新幹線の運行状況でございますが、開業効果の一服感もあり、9月以降前年度と比べてやや減少しております。

1ページおめくりください。48ページをお願いいたします。

中段に、2年目の利用実績、対前年比較がございます。博多ー熊本間、9月につきましては対前年比95%、10月につきましては95%。

以上でございます。

○坂本くまもとブランド推進課長 くまもと
ブランド推進課でございます。

50ページをお開きいただきたいと思いま
す。

九州新幹線を活用した熊本づくり及び観光
振興等について御説明申し上げます。

51ページから御説明をさせていただきま
す。

くまモンを活用したPRでございますが、
1点目のポツのところで、「くまもとから元
気をプロジェクト」ということで、10月から
実施をさせていただいております。これまで
熊本との関連性が強いものの、まだ余り訪問
をしていなかったような地域を訪問しまし
て、各地に元気を届け、地域間交流を進め
ていくようなプロジェクトでございます。

10月23日から24日、大分の日田、それと福
岡の柳川を訪問させていただいている。日
田、柳川につきましては、九州北部豪雨被災
地でございますので、そちらのほうの慰問と
いう形もあわせてやらさせていただいており
ます。

それと、11月17日から21日、沖縄のほうに
訪問させていただいております。訪問の趣旨
といたしましては、戦時中疎開をされて熊本
に、小学校の時代とか、中学校時代とかに疎
開をされた方がかなりいらっしゃいますの
で、そういう県人会の方と交流を深めており
ます。摩文仁の丘の火の国の塔にも参拝をさ
せていただいております。今後、宮城県それ
と福井、北海道等にも訪問をしたいというふ
うに考えております。

次の食品関係企業とのコラボでございます
が、先ほど企画振興部長の御挨拶の中にも含
まれておりましたけども、カゴメ野菜生活10
0デコポンミックスを、季節限定として11月2
7日から販売しております。皆さん方もご
らんいただいていると思いますけども、30秒

CMが2種類全国放送をされております。

このデコポンミックスにつきましては、デ
コポン果汁はすべてJA熊本果実連から提供
をされております。それと、今年度から製品
の一部も熊本工場の方で生産をするという形
になっております。「くまモン」をつけて昨
年も売られたわけですが、それで1.3倍を
売り上げましたけれども、今年度CM効果も
ありまして、昨年実績から比べると、出荷額
ベースで1.3倍ぐらいの伸びで今推移してい
るというふうに報告を受けております。

次のページをお願いをいたします。

3点目のポツでございます。くまモンの特
例利用許諾ということで、件数10件と計上し
ております。この特例利用許諾につきまして
は、下の米印のところに書いておりますけれ
ども、これまで食品に関しましては、県外企
業が県外での製造販売を行う場合は原則とし
て認めておりませんでした。ところが、農林
水産部ともいろいろ協議をいたしまして、県
産の農林水産物等をPRしたりその販路拡大
につながるものについては、特例的に認めよ
うという制度を創設をいたしまして、10件を
認めております。具体的には、県産米の米粉
を利用したパンの製造だとか、県産のジャ
ージ牛乳だとか、県産のノリ等を使用した形
での製品展開がなされております。

次でございますが、出版社等とのコラボで
ございます。前回の委員会のとき、本を1冊
皆さん方にもお見せしたかと思いますけれど
も、その後「くまモン」の熊本紹介本とし
て、合計7社から出版をなされております。
総計で17万部出版をされているというふう
にお聞きしております。それとあわせまし
て、東京、大阪等について、熊本の関連本を
集めた形で、熊本フェア等を実施をさせてい
ただいております。

それとあわせて、次の53ページをお開きを
いただきたいと思います。

地域の特性に応じたPR展開でございま

す。

まず、関西につきましては、10月25日から28日まで、千中タウンにおきまして、県の観光と物産展を開催をいたしまして、約9万の方に御来場をいただいております。

それと、次、広島でございますけれども、広島県と連携をした相互PRの取り組みをやっておりまして、広島のキャラクターでありますブンカッキーとの対決等を行いまして、熊本県庁並びに広島県庁でそういうPRをさせていただいております。

次のページをお開きをいただきたいと思います。54ページでございます。

福岡におきまして、西鉄ストアにおいて12月1日から12月31日、1ヶ月間、福岡県内の54店舗において熊本フェアを開催をしております。大体150種類ぐらいの商品をそこで販売をするという計画で、今実施をしておるところです。

次、③のくまモン隊についてでございます。

ツイッターにつきまして、フォロワー数を4年後の目標として15万ということで設定をしておりましたが、11月末現在で10万を超したという状況になって、かなりいい状況で推移しております。

くまモンキャラクターの使用について、11月末で許可の件数が7,413件となり、月平均大体400件を超えるような申請が出ております。

それと、くまモン使用の許諾商品の売上高でございますけれども、これまで平成23年中に売り上げたものが25億円ということで私ども御説明をさせていただいておりましたが、今年度の1月から6月の半期において調査をさせていただきました。それで出てきた数字が、118億円という数字が出ております。これは昨年の1年間と違いましたが、少しごくまで半期ベースでございますが、少し比較のベースが違いますが、かなりの伸び率で伸びて

きているのかなと思っております。

ただし、そこに回答業者等ございますが、1,579業者のうち回答しているのが674社にとどまっておりますので、まだこれは伸びる数字ではないかなというふうに考えております。

それとあわせまして、55ページでございます。

本年度初めての取り組みといたしまして、修学旅行生の受け入れをやっております。長崎県の諫早の上山小学校の6年生の56名の方が、修学旅行として熊本県庁を訪問をされております。そのときに、「くまモン」について地域づくりにどう生かされているのかという勉強をされております。今後、こういう取り組みも新たな展開として受け入れとしてやってまいりたいというふうに考えております。

次のポツでございますが、全国放送テレビへの「くまモン」の露出が増加しております。10月以降の主だったものを書いておりますけれども、かなりいろんな全国ネットの放送で、「くまモン」が出ているケースがふえているというふうな状況でございます。

今後、「くまモン」を活用して、県産物の振興・観光の誘客等をきちんと図ってまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○小原観光課長 観光課でございます。

59ページをお願いいたします。

④の「阿蘇は元気です！熊本は元気です！キャンペーン」についてですが、7月12日に発生いたしました熊本広域大水害による風評被害対策として、現在、福岡、関西、首都圏を中心に、全国紙やテレビなどを活用したプロモーション活動を展開しております。

60ページをお願いいたします。

最上段ですが、また、秋の旅行シーズンに向か、知事が旅行会社の東京本社へ赴き、熊

本への送客について引き続き要請を行っております。

次に、同じ60ページですが、⑤「期待を超えるぞ！くまもっと県。キャンペーン」についてです。この10月から来年の3月までの6カ月間、JRとタイアップし実施するものです。このキャンペーンでは、旅行会社とのタイアップキャンペーンとして、旅行会社店頭などで、オリジナルくまモングッズや特産品のプレゼントを行っております。

また、源泉数第5位を誇る熊本の温泉をアピールするため、宿泊客を対象に、県内全域に広がる多種多様な温泉を体験できる温泉無料入浴券「くまもと湯巡手形」を配布しております。これは、次の61ページ上段に記載しておりますように、県内多くの温泉施設の協力を得て行うもので、このように県内全域の協力を得て行うものとしては初めての試みとなります。

また、このキャンペーンでは、熊本全域を対象としておりますが、大きな被災を受けた阿蘇地域においては、地元の観光協会、旅館組合などと連携し、現地おもてなしキャンペーなど、宿泊者向け特典を開発し提供しております。

次に、64ページをお願いいたします。

下から4行目でございます。⑪九州他県と連携した観光客誘致活動の推進でございますが、九州観光の拠点を目指すため、宮崎・鹿児島両県と南九州広域観光ルート連絡協議会、それから65ページ中ほどに記載しております長崎・大分両県と九州横断長崎・熊本・大分広域連携観光振興協議会を設置し、プロモーション活動や修学旅行の誘致、旅行商品の造成などを推進しております。

また、10月には、大分で第3回九州横断長崎・熊本・大分観光振興議員連盟総会、さらに11月16日には、熊本県議会観光物産議員連盟が主催され、熊本で知事が出席し開催されました第20回南九州観光振興会議におきまし

て、村上会長を初め各役員、会員の皆様には熊本観光に対する応援をいただき大変御世話になりました。この場をおかりして改めて感謝申し上げるとともに、今後とも各県との連携をさらに深めてまいります。

次に、66ページをお願いいたします。

最近の観光動向についてでございます。

本県が実施した宿泊動向調査によりますと、平成24年7月期から9月期の本県延べ宿泊者数速報値でございますが、前年同期に比べ全体では約10%の減。うち国内客は、7月の熊本広域大水害による影響などにより約13%の減、海外客は約30%の増となっております。

これらを踏まえ、本県と県観光連盟では、県内宿泊施設等と連携しながら、先ほど御報告申し上げました「阿蘇は元気です！熊本は元気です！キャンペーン」や「期待を超えるぞ！くまもと県。キャンペーン」を展開しております。なお、当該ホテル・旅館からは、10月以降の宿泊客数は回復傾向にあるとの報告を受けております。

以上でございます。

○井手順雄委員長 以上で執行部からの説明が終わりましたので、質疑に入ります。何かありませんか。

○氷室雄一郎委員 九州新幹線の運行状況ですが、部長の説明で、8月までは100%を超えておったと思うんですけども、9月以降昨年度よりやや減少と、これは集中豪雨の影響もあると考えられるんですが、そのほか何か要因がありましたらば。

○中川交通政策課長 交通政策課でございます。

今、委員御指摘のとおり、夏場以降は、これは観光業者等とのヒアリングの結果ですけれども、集中豪雨の影響による熊本方面への

観光客の減は確かにあってるやに聞いております。また一方、東京方面でスカイツリー等の開業効果もありまして、お客様の流れが、昨年の開業時に比べて関東方面に流れているというお話を聞いております。両方の影響があると聞いております。

以上でございます。

○氷室雄一郎委員 ずっと100%以上ですね、前年に比べて推移しとったんですけども、ここに来てこういう傾向が、豪雨の影響かなと思ったんですけども、これからもう少しもとに戻っていただければいいんですけども、徐々に、1年目というのは非常にPRも書いて観光客もふえたんですけども、そういう推移がだんだん下がっていくという傾向にならないようにお願いをしたいと思っております。

○井手順雄委員長 ほかにございませんか。

○岩下栄一委員 「熊本元気」の観光キャンペーンをいろいろ書いてありますけど、ずっとと言われてきたけど医療観光、健康とか医療とかをテーマにした観光の企画なんかもあるんですか。

○小原観光課長 今のところ、具体的に医療観光等については計画しておりません。海外向けに関しましては、医療観光ということでモデルケースみたいな形で、希望があれば、それぞれの医療機関等を紹介したツアーを現在やっておるところでございます。

以上でございます。

○井手順雄委員長 よろしいですか。

○岩下栄一委員 はい。

○井手順雄委員長 ほかにございませんか。

○山本秀久委員 64ページ、「九州へ、飛んでけえ～！キャンペーン」と書いてあるポスターたいね、何でこれ使ったの。

○小原観光課長 これは九州観光推進機構が実施するものでございまして、そちらのほうで作成されたポスターでございます。

○山本秀久委員 熊本じゃなかね。

○小原観光課長 はい。

○緒方勇二委員 高規格幹線道路のことでお尋ねいたします。

スマートインターチェンジの件ですが、人吉インターのスマートインターですね。これはフードバレー構想にも関係してくると思うんですが、実は地元で、国道に直結したスマートインターチェンジは、これは悲願なんですが、いずれにしても各種団体、とりわけJAさん、国道の近辺にスマートインターチェンジができれば、人吉・球磨の物産あるいは産物をとにかくその辺で何かやりたいと。あの辺にいろいろとパワーセンター的なものもできていますので、フードバレー構想が何年かかるかにしても、いずれにしてもその核となるスマートインターチェンジが欲しいと。

経済圏にても、もう既に伊佐市、えびの、小林、あの辺が加久藤トンネルが抜けてから随分活性化してきてますので、政権も多分自民党になると思いますので、「わからぬばいた」と呼ぶ者あり、笑声) 時に考えれば、県南の振興の核となるスマートインターチェンジを、企画振興部長はどのようにお考えなのか、県南振興の観点からもひとつお聞かせいただければと思います。

○錦織企画振興部長 私も先日、球磨のほうの各首長さんを訪問して、フードバレー構想

については一つ一つ丁寧に御説明申し上げたところ、すべての首長様から、ぜひこの形でフードバレー構想を進めてほしいというようなお話をもいただいたところでございます。

そのときに、ちょうどスマートインターの想定されている地域というものも拝見しまして、その国道とそれから高速がクロスするようなところで、非常に立地がいいところだと私も拝見いたしました。あとは、地元市町村様の御同意のもとに御計画されれば、話がその次のステップに進み得るのかなというふうに個人的には思っております。

いずれにしても、今後進めさせていただきたいと思っておりますフードバレー構想につきましては、いろんな姿のものがあろうかと思います。その中に高速道路網というのが入ってくるのかどうか、それは引き続きまた御相談させていただきながら、その中でどう位置づけていくのかという御議論をさせていただければと思っております。

以上でございます。

○緒方勇二委員　いずれにしても、ルネサスがああいう撤退の形、国内の資本で再生できれば一番いいんでしょうけども、要は雇用の先が苦しんでいる人吉・球磨なんですが、どうしてもフードバレーのほうに皆さん夢を描きつつあります。その中でどうしてもスマートインターチェンジのことがついて回る話でありまして、これは高校再編ともちょっと絡んでくるんですが、多分3が2ですから、跡地利用のこともありますて、どうしてもあの辺を農産物できちんとした形で輸送ルートを確保、あるいは誘客をする、人の流れを変える、どうしてもそれが必要だという声がたくさん来ていますので、ぜひともお力添えをいただきますようお願いしておきます。

○井手順雄委員長　ほかにございませんか。

○佐藤雅司委員　17ページでございますが、下から4行目のところですね、「6月末から8月にかけて復興航空による計16便の連続チャーター便が実現した。」ということで、いわゆるインバウンドで、熊本それから北九州だったと思いますけども、当初チャーター便は実現しましたけども、その実績と、それから今後どのように展開をしていかれるのか、手を打っていかれるというんですか、定期航空路線を開設というのが我々の目的でありますから、そういうところをどうやんふうに手を打っていかれるのか、ちょっとその辺をお尋ねしたいと思います。

○小林理事(県理事兼交通政策・情報局長)

今、台湾路線についてもさまざまな形での取り組みを展開をして、大分集中した取り組みを進めていっているわけなんですけれども、今、国によって少し取り組み方の違いがあるのかなと思っております。

台湾に関しては、鹿児島とか宮崎とか先行している地域の取り組みは、やはりチャーター便の実績を重ねていく、それが一番航空会社に対する説得力があるというふうに考えておりまして、まずはチャーター便の実績を重ねていくということと、あとは、航空会社がさまざまありますて、復興航空とかマンダリン航空とか、いろんな会社が今でつつあります。それは日本の路線を形成しつつありますので、そういう航空会社間のちょっと思惑をうまく考えながら、その力関係をうまく利用しながら、なるべく早く定期便をつくり上げたいというふうに考えております。まず、そういう活動をしていこうと思っております。

○佐藤雅司委員　そのあたりで幾つも航空会社があるわけですけども、何とかすり寄つて、熊本に非常に興味を持たれて、実現したいなというふうに思っているような航空会社

というはあるんですかね。

○小林理事(県理事兼交通政策・情報局長)

現段階では、今、現実的には福岡と鹿児島と宮崎の3拠点、台湾の航空会社が張っておりまして、そこは中華航空がしっかりと押さえています。した中、熊本というところが、ちょっとなかなか直接の就航地としては目を向けてもらいたいにくい環境にあるんですけども、現実、復興航空が連続チャーター便を飛ばしたように、次第に存在感を示しつつあるのかなというふうに思っております。

まずは、とにかく、積極的に航空会社に対する働きかけを続けていくことが重要だと思います。

○佐藤雅司委員 やっぱり売りだと思うんです。九州の真ん中にあるということと、それから向こうの方々がどういうところを、温泉であれ何であれ、それとお買い物であれ、たくさん興味を持っていらっしゃる、その辺をしっかりとつかまないかぬですから、そういうところにしっかりとニーズの調査といいますか、それはもちろんやっておられるとは思いますけれども、その辺をやっていたいきたいというふうに要望しておきたいと思います。

もう一件ございます。この中に道路政策課ですか、いわゆる災害後の滝室坂の件ですが、かなり中九州横断道路を見据えた道路のつくり方をということで、九州整備局もしっかり言ってらっしゃったというふうに思うんですけども、こないだも聞いたんですけども、その後の展開というものはどういったところにあるんですか。

○手島道路整備課長 先ほど冒頭の説明でございましたように、国に対する要望というのを続けているというのがまず一つでございます。それと、国の方も現地の調査などを何度

もやっておられまして、方向性としては、佐藤委員がおっしゃったような形で、国のほうも考えられているというふうに伺っておるところでございます。

○佐藤雅司委員 中九州についてはまず現道回復だということで、屋根をつけたり、手すりは上にあるわけですから、その辺を現道をまず回復して、安全な道路ということですそれが一番だろうと思うんです。その後の話だろうと思いますので、そういうところをぜひ強く、やっぱり知事もおっしゃっておりますように、「九州の中のすべての道は熊本に通じる」と、この程度の雨でいわゆる幹線道路が寸断するようであれば、やはり州都もおぼつかない、というような話も委員会なんかで出たそうでございますので、その辺は強く押してほしいなというふうに思っております。別に答弁は要りません。

以上です。

○増永慎一郎委員 新幹線の利活用の件なんですけど、昨年もちょうどこここの委員会で、また総務常任委員会で、修学旅行でなかなか利用ができないということで、みんな関西方面に行く場合には、福岡までバスで行ってそして福岡から乗るということで、何かその辺が、熊本のほうで乗り降りができないのかという話が出ていたと思うんですが、その後変わったこととか何かあれば、ちょっと教えていただきたいと思います。

○中川交通政策課長 交通政策課でございます。

前回の委員会ですか、前々回でしたか御指摘いただいた修学旅行につきましては、この春のダイヤ改正に伴って、大阪直通がかなりふえている背景を受けて、うちの県内からの修学旅行はほぼ要望どおり、熊本から乗れているという話を聞いております。

もちろん学校側から、エージェント手配なんですけども、料金の関係で福岡から乗っている、それは学校側とエージェントの話で決められている、そういう話も聞いております。かなり修学旅行で新幹線の利用は充足していると、そういうふうに聞いております。

○増永慎一郎委員 こっちから乗る分に関しては、要望分は全部きちんと乗れているということで、それなら逆の場合はどうなんですか、向こうからこっちにおりてくるという部分は。

○中川交通政策課長 関西方面からのインバウンドにつきましても、むしろ関西方面は、JR西さんが先に九州方面に向って新幹線を開業していましたので、学校同士で連携をして、時期を調整して運ぶというような仕組みができます。ですので、向こうから来るほうがかなり乗れている実績がある。むしろこちらから行くほうは、これからそういう、今御指摘がありましたように、どうしても時期が重なれば、新幹線のキャパがござりますので、日程調整、日程が合わなければやむを得ず福岡という事例はございますけども、そういうこちらから行く分についても、学校同士で日程を調整していくような仕組みができれば、もっともっと直接乗れる機会がふえると、そういうふうに伺っております。

以上でございます。

○増永慎一郎委員 なぜこういう質問をしたかというと、ちょうどうちの娘が今修学旅行で京都・大阪方面に行っているんですが、学校の先生と話したら、なかなか熊本駅から乗れないという話をされました。旅行会社との話し合いでそういうふうになっているとは知りませんでしたが、一つは、やっぱり駅を利用させないと、駅でお金を落とすという部分がものすごく大きいわけなんですよ。

だから、逆に、熊本から行って熊本で品物を買う人は少ないかもしれませんけど、逆の場合を考えてもらって、きちんと熊本までそのまま乗りおりができるような形にしつかないと、例えば今から駅ビルあたりをきちんとしたときに、売り上げ等、要は、修学旅行等はお金はなかなか使ってもらえないというふうな話なんですが、そういうふうな駅とかでは結構お金を使うというふうな話を聞いておりますので、その辺をもう一遍きちんとそういうものに対応ができるように、県のほうからもJRに要望していただきたいというふうに思います。

よろしくお願ひします。

○岩下栄一委員 こないだ鹿児島に行って屋台村、熊本駅は「世界の熊本駅」とかいうふれ込みだけど、魅力が今のところ乏しいですね。熊本駅で遊びたいという感じはないし、もうちょっと何か魅力ある熊本駅をつくる必要があるじゃないかなと。今、修学旅行生の買い物なんかの話もあったけど、今の熊本駅ではちょっとうら寂しいですね。

それから、森都心プラザができたけど、これは観光とはほとんど関係ないし、その点がちょっとどうかなと。

○村上寅美委員 どうかなあて、東口は今からでしょうもん。（笑声）だから、経済界とも話をしとるんだろう。一応民間というか、地元の要望、それから経済界の要望、これをどんどん挙げて、そして議会でたたいて、そして小倉、福岡それから鹿児島、縦線で、熊本だけ皆さん方が今言うように、素通りで行くような状態じやいかぬから、一遍引きおろすと、熊本でおろすと、そして阿蘇や天草や熊本城、おりらぬことには何もできぬとだけん、その辺は君たちは駅ビルも含めて、今後の東口の在来線のほうの。

これで、きのう体協で体協の会長の話があ

ったけど、駅舎の完成は28年か。

○内田都市計画課長 濟みません。2年延びて30年度でございます。

○村上寅美委員 駅舎もや。

○内田都市計画課長 はい。

○村上寅美委員 駅舎も延びとっとや。

○内田都市計画課長 はい。

○村上寅美委員 連続立交だけじゃなくて、駅舎も延びた。

○内田都市計画課長 連続立交の中で駅舎も整備いたしますので、一緒に延びることになります。

○村上寅美委員 また文句言わなんごとして、もうよかばってん。（笑声）それで、30年にはやっぱり東口に、今岩下委員とかいろいろ意見があるように、魅力ある熊本駅の存在というのを部長、ちゃんとこれは構想のスタートをしないとなかなか、知事と市長とJRと会議をして下におろすという形になってからも、上で合意したことだけど、下のほうの現場になれば、大きな流れはできるけどなかなか実現せぬわけたい。大体、県と市の協議ばしょっとかでいうぐらい温度差があるけんね。

本当に、政令指定都市だから全部道路は熊本市だと、だからそれは市です、なんですよ。だから、そうでなくとも、県内だけでも縦割りを、今いろいろ会長を初め自民党・我々は指摘しよるのに、今度は市との問題だからそれは市ですもんねと、市ですからとすぐ言う。市に振って、我々は市会議員じゃないんだから、やっぱり県で提案して市におろし

て、市と協議をしてもらわなくちゃいかぬ、な、答弁。

○上野鉄道高架推進室長 失礼しました。鉄道高架推進室でございます。

委員のお話は、私の関連するところであれば、連続立交の話の中でありましたら、せんだけて御説明させていただきましたが、30年に延ばせていただくということの中で、一つ委員から以前からお話をあっておりますのは、石仏踏切への豊肥線の踏切に関して市との協議をというお話を思ったかと思います。

これにつきましては、私どもも事業を進める中で、連続立交としてどうかということになる前に、市のほうの道路管理者とか、あるいは現在踏切自身が道路が立体に、上を行く都市計画決定になっているものですから、その辺のことをしっかりと市の中で協議をしていただくように、県としましても情報提供をして協議をさせていただいているところでございます。

以上でございます。

○村上寅美委員 だから言ったように、市がどうするかじやなくて、事業主体が熊本市だからということばーんと放しつつ。それは困るというわけない。やっぱり我々は県からおろして、地元の必要性というところであれしょとだから。今、西部のあの道路は朝晩通るから、遮断機がおりているし、だから熊本駅のメインだけを整備しても、周辺道路の整備をしないことには交通アクセスはよくならぬよ。

もう答えはよか。要望でよか。だから部長、その辺は道路に限らず、きょうは岩下委員の話もあったように、これから組み立ててちょうだい。要望、何かしている。

○錦織企画振興部長 村上委員御指摘のとおり、今、市と協力しながら、駅舎の周辺地区

の整備について議論をしていかなきやならない段階に来ておると思っております。

御承知のとおり、熊本の玄関口でございますJR駅を整備するということの意味は、別にその地域だけの発展という問題ではなくて、まさに熊本県の窓口として、そこを基点に全県内に観光客なりビジネス客の方に御利用いただくというハブの部分でございますので、これは単に市の問題ではなくて、県下全体の問題として県庁としても取り組まなきやいけないと考えております。

それから、熊本市域の整備という点で申し上げますと、御存じのことと存じ上げますけれども、熊本駅周辺の地域とそれから熊本城を中心とする既存の市街地との整合をどう図るのかという、多重的な問題を抱えておるものでございますから、少々お時間がかかるかと思しますけれども、その問題については私ども県庁というのが全体として、みんな問題ひっくるめた上でしっかりと市と協議していくなければいけない、それはよくわかっておるところでございますので、よろしくお願ひいたします。

○村上寅美委員 だから、まず企画で出発して各部に振るような形で、ひとつ強く要望しとくから。

委員長、もう一点、せつかくだから。観光物産というか、今度南九州3県で初めて、これは会長の提案だけど、やっぱり各県の知事が出席するということで、第1発目熊本でやったわけですけど、そのとき、今度初めて南九州は一つだということで物産展を台湾でやるわけね。だから、それは1月の24日からか、熊本のチャーター便にあわせて宮崎も鹿児島も協力をしてくれるわけたい。

それで、そのとき、熊本からの出展も当然あるんでしょう。その辺はどうなっているの、わかっている人。

○小原観光課長 その物産展につきまして、今国際課のほうが中心で、農政と調整をしておるところでございます。

○村上寅美委員 そんならわからぬというわけ。

○小原観光課長 中身については済みません、詳細は把握しておりません。

○村上寅美委員 何か私に入った情報では、鹿児島、宮崎、熊本、大体5社から10社ぐらい各県から来て商談会をする、3県一つになって、経費節減とかそれから売り込みとかを、南九州は一つということで初めてこれが実現できるわけだから、ぜひね、もちろん、観光もだけど、最終目的は、今プログラムチャーターを部長が言ったように、とにかくこれが非常にふえとるから一安心したけど、これを続けながら定期便を出さないかぬと、おくれをなしているわけだから、鹿児島にせよ、鹿児島は週2便が3便になったたでしよう。宮崎はちょっと希薄のようだけどね。

だから、簡単に言うなら、宮崎が満席にならぬわけだから、宮崎ー熊本ー台北で飛んでくれたらどうということはない。逆もそうだしと思うけど、これはなかなか航空会社の事情でできぬけど、とにかくこれは小林君、やっぱりやらにやいかぬぞ君は、帰る前に。(笑声)

君の説明があったように、おくれをなしているわけだから、ぜひ県民挙げて、だけん、1月24日のあれじゃなくて、年内に何便かプログラムを組みなさいよ。議員にも割り当てるたい、1機ぐらい。(笑声) そんくらいのはまりは持つとるけん、みんな。君たちのやる気たい。

以上です。

○氷室雄一郎委員 私いつか質問しようと思

ったんですけど、空港路線の利用促進について、14ページですかね、毎回これは出されます。10年間の阿蘇くまもと空港の旅客数の推移ですけど、平成18年度をピークに10年間、大変な御努力をされながらもほとんど変わらない。人口減少でこの辺が、この10年間の数字をよく見ますと、大変なお金も使い、御努力をされながらもこういう推移で来ている。

こういうところを見ますと、熊本にとっては100年に1度のビッグチャンスを迎えたわけでございますので、この辺を一つの節目として、ある程度こういう数字が今後ふえる可能性はどこにあるのかということでしっかりと、毎年毎年の施策でなくて、ある程度ポイントを定めた取り組みをしなければ、私はその推移はそうは変わらぬと思うわけです。

また、次の16ページに、羽田空港の再拡張に伴い増便が予定されていると。この増便は利便性を高めるという面ではいいんですけども、利便性だけではなくて、やっぱりそういう人の流れもふやさにやいかぬということで、会社さんなんかはどういうふうに考えておられるのかということで、県の考え方としてどういう面から増便を求めていかれるのかということ。

これは毎年毎年いろんな手を打たれますけど、人数が平成18年度のピークを超えるということは、これはよっぽどのことがない限りは、今いろんな御意見出ましたけども、大変難しいんではないかと思うわけです。その辺の展望性と増便のことについてちょっとお尋ねしたい。

○小林理事(県理事兼交通政策・情報局長)

委員御指摘の国際線、空港の利用者ということですが、現在日本全体で景気動向によりまして、経済の動向によって航空旅客というのは全国で上がったり下がったりする、または国際線については、例えば国際情勢でありますとか、鳥インフルエンザがはや

ったりすると大きく左右されるというところがあります。

私ども一つ考えておりますのが、今空港で、例えば空港経営改革というような話も進んでおります。その中で、熊本の空港が安定して経営していくためには、やはり300万人近い利用者を維持していくべきだろうというふうに考えておりまして、今270万人台でありますが、今後例えば羽田の増便でありますとか、大阪については力を落とさぬようにしてなるべくこのレベルを維持し、国際線については今3万数千人ですけども、ポテンシャルとしては、15万人程度の利用者を扱えるだけの能力は持っているというふうに考えておりますので、それを上積みして何とか300万人台に近い数字を維持していく、そのためには航空会社との協議は常にふだんからしていかないといけませんし、例えば新規路線の開設につきましては、さまざまな交渉を常にふだんにしていかなければいけない、この努力の連続によって何とか維持していくものだと考えておりますので、その努力については執行部としても水面下、水面上含めてやっていきたいと考えております。

○氷室雄一郎委員 先ほど話がございました300万人という一つの安定した空港の運営といいますか、有益性を保つためには、そのくらいの覚悟は何とか、それは特別な経済状況とか、あるいはさっきあった自然災害等もあれば影響を受けるわけでございますけど、しかしこういう10年間の推移を見ながら、どこまでも行けというわけじゃございませんけども、ある程度手を打ったものが効果を生みながら300万人という、そういう一つの基準を確保しながら御努力をしなければ、いろんなことをされて、結果的には、数字的にはあらわれてくるわけでございますので、その辺しっかりと短いスパン、長いスパンともにあわせながら、またいろんな関連する部署とも協議

をしていただきながら、懸命な取り組みをしていただければと思っております。よろしくお願ひいたします。

○杉浦康治委員 29ページ最下段に、防災関係云々ということがありますけど、前回だったと思うんですが、小杉委員のほうから、空港のトンネルがだめになったときの迂回路についての御指摘があったと思います。その点について検討が始まっているのか、あるいはいろいろ調査されているのかということを、まずはちょっとお尋ねしたいと思います。

○亀田道路保全課長 道路保全課でございます。

今、委員の御質問の、空港地下道の危機管理の件でございますけど、以前から土木部で空港地下道の危機管理につきましては、振興局とそれから空港ビルディングあたりと連携しながら、早急などといいますか、何か危機が生じた場合には早急に対応できるような体制をとっておりまして、この前の委員会の後、一つ、空港の東側、西原側の農道が全部整備が終わりました。

第3空港線の途中から家畜市場の横を通りまして、2車線の立派な農道が供用しております、それが空港の東側のちょうど西原村と益城町の町村界付近にタッチしております、それをさらに迂回路として活用するよう、危機管理マニュアルを一部改正したというところでございます。いわゆる選択肢が少しふえたということあります。

以上でございます。

○杉浦康治委員 マニュアルということありますので大変結構なことかなと思うんですけれども、一度実際にとめてシュミレーションするとかというようなことまでやられておくほうがいいのかなというふう思いますということを言っておきます。

それともう一つ、25ページなんですけれども、図の⑦で、出入口の新設ということがございます。これは堂園小森線からの接続の道路ということになろうかと思うんですが、利便性向上ということを考えると、この道路ができ上がった後の両脇のエリアの利活用について、この辺はどんなふうにお考えになっていらっしゃいますか。

○中川交通政策課長 交通政策課でございます。

御指摘の堂園小森線につきましては、今年度も既に交差点の部分を含めて着工しております。この道路が先のほうまで通るのは、もう少し時間がかかると聞いています。

その後の利活用につきましては、周辺の土地の規制の現状ございますので、その規制の中にあります、法令等と照らし合わせながら、ケース・バイ・ケースで判断していくことになるかと思います。まだこれからのことかと認識しております。

以上でございます。

○杉浦康治委員 これから検討していただくということなんですけれども、ぜひ今一番不便なところにあるレンタカーの会社の移設であるとか、ここが多分阿蘇方面への出口というような形に位置づけられてくるだろうと思うんです。そうなった場合の、出る前の、いろいろな買い物とか、そういった点についての利用客に対するサービス、特にガソリンスタンド等についてはレンタカー、ここに帰ってくるというような形になれば非常に利便性向上になると思いますので、これから利活用を考えられるということであれば、ぜひその点を考慮して、ある程度面的な、今個別個別の判断というふうなことでお話しされていますけれども、ある程度面的な利活用、あるいは規制についての考え方というのをやっていただきたいというふうに思います。

あと、済みません、もう一点。あとは33ページあたりなんですかけれども、PTPSの絡みで電車でのビーコン関係の制御というのは書いてあるんですけれども、バスについての活用というのはどんなふうになっていますか。

○中川交通政策課長 バスのほうも、市内便につきましては、この路面電車とほぼ同時期に、年度は分けておりますけども、発信器をつけておりまして、例えば県庁前バス停とかも接近表示をつけて、少しでも公共交通のスピードアップ、マイカーからのシフトが図れるように整備済みでございます。

○杉浦康治委員 それは信号制御との連動ということも含めてですか。

○中川交通政策課長 含めてです。

○杉浦康治委員 わかりました。あとは、基本的には多分、市内のエリアというのが一番ネックになっているだろうということがあると思います。村上委員がおっしゃった市内の道路事情を解消するということが、一番速達性なり定時性ということに効果があるというふうに思いますので、ぜひ市内との連携というか、市との連携というものをもう少し深めていただければというふうに思います。

私も全然知らなかつたんですけれど、市が設置している協議会ですか、それに県が加わるようなバス路線網という形になっておりますけれども、できれば、道路等については県のほうがリードするような形で、しっかりとやっていただいたほうがいいのかなというふうに思います。

以上です。

○井手順雄委員長 それでは、質疑は終了いたします。

次に、議題(2)閉会中の継続審査についてお諮りします。

本委員会に付託の調査事件については、引き続き審査する必要があると認められますので、本委員会を次期定例会まで継続する旨、会議規則第82条の規定に基づき議長に申し出ることとしてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○井手順雄委員長 異議なしと認め、そのようにいたします。

最後に、要望書が1件提出されておりますので、参考としてお手元に写しを配付しております。後でごらんいただきたいと思います。

それでは、これをもちまして本日の委員会を閉会します。

午前11時09分閉会

熊本県議会委員会条例第29条の規定によりここに署名する

高速交通及び新幹線活用対策特別委員会
委員長